

【授業科目】 一般検査学実習 I General Specimen Analytical Technolgy Practice I

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
小菅 優子	2年次前期	必修	1	30	実習	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	<p>授業概要／検体を用いて尿の観察から化学的検査項目である比重、尿タンパク、尿糖の定性および定量試験、尿ケトン体、尿ビリルビン、尿ウロビリノーゲン、潜血試験についての手技・手法の実習を通して教授する。また、これら検査項目の偽陽性・偽陰性を調べ、検査の正確性を保てる臨床検査技師の知識を教授する。尿沈渣検査法では、標本の作成および染色法、鏡検を体験させる。尿中成分の形態学的特徴を、身体の構造、特に疾病時の臓器・組織・細胞等の形態学的検査とともに講義する。実習形式で個人ワークやグループワークを通して学生が主体的に参加し、実習を展開する。*実務経験を持つ教員が授業を進める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①臨床現場で測定可能な技術を身に付けることができる。 ②定性検査での正確な判断基準を説明することができる。 ③尿沈渣標本作成法や細胞の鑑別を説明できる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>第1～15回事前学修：指定の教科書を事前に読み、解らない用語について調べておくこと（各60分）。 第1～15回事後学修：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各60分）。 *その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各120分）。</p> <p>※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 尿検査1：色調、混濁、比重 第2回 尿検査2：試験紙検査方法、多項目試験、 第3回 尿検査3：尿タンパク定性試験、定量試験 第4回 尿検査4：尿糖定性試験、定量試験 第5回 尿検査5：尿ケトン体、尿ビリルビン、尿ウロビリノーゲン① 第6回 尿検査6：尿ケトン体、尿ビリルビン、尿ウロビリノーゲン② 第7回 尿検査7：潜血試験の偽陽性・偽陰性 第8回 尿沈渣1：尿沈渣標本作成法 第9回 尿沈渣2：尿中細胞の形態学的特徴 第10回 尿沈渣3：尿沈渣成分の観察 第11回 尿沈渣4：尿沈渣成分スケッチ 第12回 尿沈渣5：尿沈渣標本作成および観察① 第13回 尿沈渣6：尿沈渣標本作成および観察② 第14回 実技試験① 第15回 実技試験②</p>						<p>全て小菅</p>	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評価配分によって総合的に判断する。 単元ごとのレポート 50%、 実技試験 50%</p>							
教科書	『最新臨床検査学講座 一般検査学』 医歯薬出版株式会社 ※1年後学期「一般検査学」で使用したもの			参考書等		なし		
学生へのメッセージ	<p>実習は各自、積極的に取り組んでください。 レポートの作成は自身のレポートを見て、次に同じ手技が出来るように方法、注意点を記載してください。</p>							